



ワークショップの様子 (2015)



参加者 (2015)

未来構想キャンプ ～未来を創造する新たなステージへ～

環境情報学部 准教授

たかしおかずのり
高汐一紀

夏が盛りを迎える頃、今年もまたあの熱い日々がやってくる。個性豊かな高校生たちでキャンパスが賑わい、揃いのTシャツで教室が色鮮やかに染まる。もはや夏の風物詩ともなった、「SFC未来構想キャンプ」だ。

未来構想キャンプは、自由闊達な議論を通じて特別な時間を分かち合うという、大学における知的活動の本質を高校生に体験してもらうイベントだ。高校生たちは、SFCの教員や在学生と共に丸一日、頭も身体も忙しく動かして「未来」をデザインする。加藤文俊教授のことばを借りれば、「キャンプ」は単なる「野営」ではなく、現場で自分たちの能力や経験を活かし、創意くふうを行動に結びつけることの重要性を学ぶ「環境」なのだ。SFCと相思相愛になった上で入学してきてほしい。我々の想いはこの一点に尽きる。そのために、教員も事務スタッフも、全力で楽しみなながら準備をする。毎年、研究の最先端に触れることのできるワークショップを5〜6揃えるのは、なかなか大変だ。それだけに、当日の夕刻、疲れながらも満足した顔で帰途につく高校生たちの姿を見

ると、たまらなく嬉しくなる。集まる高校生もみな元気だ。未来構想キャンプを経験して入学してきた学生に対する、教員の評価も総じて高い。今年も、念願であった「未来構想キャンプ（滞在型）」の開催が、ついに実現する。従来型を「未来構想をプロトタイプング」するキャンプとするならば、宿泊を伴う滞在型は、その先を見据えた「リアルに未来を創造」するキャンプと言えるだろう。首都圏以外の地域からの参加機会も増える。さまざまな場所で多様な経験を積んだ者同士が昼夜を通して知恵をぶつけ合えば、きっと新しい何かが生まれるはずだ。

ワークショップで顕著な活躍を見せた高校生を対象とした、大学教員による継続的なフォローアップ・プログラムもスタートする。実際の研究プロジェクトの中で、SFCの問題発見・解決型教育をより長期間体験してもらおうというものだ。インターシッピング型の高大連携と言ってもいい。新しい試みはまだまだ続く。キャンプのやり方は一つとは限らない。SFCは常に新しいことにチャレンジし続けるキャンパスなのだ。